

「中期目標・中期計画評価」における評価結果(令和4・5年度実績)について

本学では、中期計画の進捗状況を毎年点検し、定期的に評価することで、目標達成に向けた取組の促進に活用する「中期目標・中期計画評価」を実施することとしています。

この度、本学の自己点検・評価委員会において、令和4・5年度の評価指標の達成状況や中期計画の実施状況を評価したところ、多くの指標が順調または予想以上に進捗し、それに伴い、中期計画について「特筆すべき実績」、「優れた実績」を上げています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部目標値に至らなかったものなどがあり、中でも、中期計画に重大な懸念(過度な遅れ)があるものを「改善事項」として掲げ、その進捗状況の改善を図ることとしています。

なお、目標値に至らなかった指標については、中期計画の達成に向けて、必要に応じて対策を講じる等の取組を進めていくこととしております。

「中期目標・中期計画評価」における点検・評価結果

令和6年7月
自己点検・評価委員会

目 的

「中期目標・中期計画評価」は、中期目標の達成状況と中期計画の進捗状況を自ら定期的に点検・評価し、評価結果を中期目標の着実な達成に向けた取組の促進に活用するとともに、法人評価にも併せて活用することを目的に点検・評価を実施する。

1 評価（2年毎に実施）

各戦略室から提出された実施報告書及び評価指標調書をもとに、「中期目標・中期計画評価実施要領」に沿って、評価指標ごとの達成度及び中期計画ごとの実施状況の評価を行う。

2 評価結果

中期計画に設定された79の指標（再掲6指標含む）について、令和4・5年度実績における点検・評価結果は、次頁のとおりである。

《国立大学法人徳島大学 第4期中期目標・中期計画》

https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/4/4/4/6/8/8/_/2403_cyukimokuhyochukikeikaku.pdf

中期目標		中期計画	実施状況※1 (計画数)	評価指標	達成状況※2 (指標数)
社会との共創 【1】～【2】	2項目	6項目	評点5：1 評点4：3 評点2：2	16指標	達成度3：8 達成度2：6 達成度1：2
教育 【3】～【7】	5項目	6項目	評点4：2 評点3：3 評点1：1	13指標	達成度3：3 達成度2：9 達成度1：1
研究 【8】～【10】	3項目	4項目 [うち再掲1]	評点4：1 評点2：3	16指標 [うち再掲5]	達成度3：3 達成度2：8 達成度1：5
大学間連携 【11】	1項目	1項目	評点4：1	2指標	達成度3：1 達成度2：1
病院 【12】	1項目	3項目	評点3：1 評点2：2	12指標 [うち再掲1]	達成度3：3 達成度2：7 達成度1：2
業務運営 【13】～【17】	5項目	7項目	評点4：3 評点3：3 評点2：1	20指標	達成度3：10 達成度2：9 達成度1：1
計	17項目	27項目 [うち再掲1]	評点5：1 評点4：10 評点3：7 評点2：8 評点1：1	79指標 [うち再掲6]	達成度3：28 達成度2：40 達成度1：11

※1 中期計画ごとの実施状況の区分	※2 評価指標ごとの達成状況の区分
評点5：実施計画を実施し、特筆すべき実績を上げている 評点4：実施計画を実施し、優れた実績を上げている 評点3：実施計画を実施している 評点2：実施計画が十分に進捗しているとはいえない 評点1：実施計画が進捗しているとはいえない	達成度3：上回る実績 達成度2：順調な実績 達成度1：下回る状況で改善が必要

●令和5年度実績における「改善事項」「特色ある取組」「優れた実績」

評価指標の達成度の点検結果及び実施報告書の記載状況を踏まえ、中期計画の進捗について、重大な懸念（過度の遅れ）を「改善事項」、顕著な実績を「特色ある取組」、「優れた実績」として抽出した。

《令和4年度実績における「特色ある取組」、「優れた実績」》

「中期目標・中期計画評価」における点検結果（令和4年度実績）について P3参照

https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/4/3/1/8/0/5/_/R4chuukimokuhyouutenken.pdf

【改善事項】

- 産業界や地域社会から求められる人材養成（教育研究組織改革）（中期計画 3-1）
大学院創成科学研究科博士後期課程の入学選抜の実施状況において、定員充足率は 61.70%であり、定員未充足の状況となっている。
なお、他の研究科においても、入学定員未充足、収容定員超過の課程があり、適正な定員充足率となるよう改善を図る必要がある。

【特色ある取組】

- 高度な専門技能を有する医療人育成のための実践的なトレーニング及びリカレント教育（中期計画 1-3）
看護リカレント教育センターにおいて、認定看護師教育課程（感染管理分野）を開設し、地域の医療機関からのニーズが高く、喫緊の課題であった感染予防・管理・監視を行える能力を身につけた専門性の高い看護職の育成をスタートした。
- 次世代“光”創出応用による産業振興・若者雇用創出（中期計画 1-5、9-2）
地方大学・地域産業創生交付金事業（平成 30 年度）の採択自治体を対象とした、国費支援終了後の特例的追加投資「展開枠」に、本学が参画する、徳島県の「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画<展開枠>」が採択された。
また、令和5年7月には、大学産業院「次世代光インキュベーション機構」を新設し、次世代光技術を事業化する際の技術ギャップや事業化ギャップを解消するため、各種開発技術の事業化判断に繋がる事業目論見の検討、具体的には、製品仕様・差異化技術・品質保証・販売計画などを含むプロトタイプ作成に取り組むとともに、これらを通じた新規技術習得に向けた人材育成を行っている。
- 大学版 SBIR 制度の推進による持続可能な産官学共創システムの構築と地域イノベーション創出拠点の形成（中期計画 1-4、9-1）
持続可能な産官学共創システムの構築のため、令和4年8月1日、徳島県、全国農業協同組合連合会徳島県本部（「JA 全農徳島」）と「産学官連携による地域バイオマスを有効活用した持続可能な農業の実現と関連産業の振興に関する協定」を締結し、徳島県農業における未利用資源からの新たな価値創出と生産体制の強化、地域バイオコミュニティ事業の実現のための取組を推進し、BIRC ヴォルテックス棟（令和5年8月共用開始：企業と大学が連携しオープンイノベーションを推進するための産学融合拠点）に共同研究拠点を置き、具体的な連携研究を開始した。
- 大学版 SBIR 制度の推進による持続可能な産官学共創システムの構築と地域イノベーション創出拠点の形成（中期計画 1-4、9-1）
「産業院」を発展的に解消し、本学の産官学連携活動を促進させ、研究成果の活用を推進するとともに、産業創出に貢献する人材を育成し、研究成果の事業化及び事業展開の可能性検証を進めることにより、社会的インパクトの大きいイノベーションの創出を図り、大学全体として社会変革を先導することを目的とする「大学産業院」を令和5年に設置した。

- **知的財産活用戦略（中期計画 2-1）**
大学産業院「ものづくり未来共創機構」を令和5年度創設し、医工マッチングによる研究テーマの創出を行った。ものづくり支援事業としてロールモデルを策定し社会実装を推進する。令和5年12月7日にキックオフシンポジウムを開催し、地元企業を始め多くの参加者に大学の技術のポテンシャルを共有できた。
- **（株）産学連携キャピタルとの連携による教育研究成果の社会実装の推進（中期計画 2-1）**
広島大学を主幹機関とするスタートアップ・エコシステムであるPSI（Peace & Science Innovation Ecosystem）に共同機関として参画。今後、GAPファンドの獲得支援、目利き人材の受入れを行い大学発スタートアップの創出に向けた取組を行う。
- **コスト分析の見える化と戦略的・効果的な資源配分（中期計画 15-1）**
非財務情報と財務情報から構成される「統合報告書」を発行し、多様なステークホルダーに向けて活動状況等を発信した。

【優れた実績】

- **次世代“光”創出応用による産業振興・若者雇用創出（中期計画 1-5, 9-2）**
ポストLEDフォトリソグラフィ研究所にて重点研究テーマとして進めるオール光型テラヘルツ通信に関する研究では、マイクロ光コム利用では世界最高周波数（560GHz）でのテラヘルツ通信を実現した。
- **教育・研究成果の事業化、イノベーション創出支援（中期計画 1-4）**
三菱みらい育成財団の助成を受け、これまで実施してきたTIB（徳島イノベーションベース）や神山まるごと高専との連携を強化し、これまで実施してきたアントレプレナーシップ教育プログラムの充実を図った。結果、受講生の大幅な増につながり「起業を知ろう」については、昨年度の約2倍となる59名の受講生が参加し、学生間におけるアントレプレナーシップに対する関心が広がってきている。
- **質の高い高度な低侵襲医療の提供（中期計画 12-1）**
心臓血管外科では循環器内科と共同でTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）を使った手術に取り組み、TAVI実施施設として平成29年1月に認定されてから、質の高い手術経験を重ね、令和5年10月に人工透析患者にも実施できるTAVI専門施設の認定を受けた。また、泌尿器科では、令和5年12月に、hinotori手術支援ロボットを操作するためのトレーニングの一環である臨床症例の手術見学受入及びCertificateの発行が可能な施設としての認定を取得した。
- **DXの推進（中期計画 17-1）**
16件の業務が電子申請・RPA化されたことによる最適化及び効率化により、年間13,349時間の業務が削減された。そのうち、特に、就業管理システム（勤怠管理、休暇申請等のシステム化）の運用開始により、12,504時間が削減された。